

氏 名（国籍）	タナテ ケネス（フィリピン）
学 位 の 種 類	博 士（社会工学）
学 位 記 番 号	博 甲 第 3679 号
学位授与年月日	平成 17 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審 査 研 究 科	システム情報工学研究科
学位論文題目	Gated Communities in Metro Manila : An Empirical Analysis on Living Conditions and Social Functions (メトロマニラにおけるゲーテッド・コミュニティに関する研究－生活環境と社会作用に関する実証分析－)

主 査	筑波大学教授	博士（経済学）	土 井 正 幸
副 査	筑波大学教授	工学博士	大 村 謙二郎
副 査	筑波大学助教授	博士（工学）	藤 川 昌 樹
副 査	筑波大学助教授	博士（工学）	渡 辺 俊
副 査	筑波大学講師	博士（工学）	村 尾 修

論 文 の 内 容 の 要 旨

都市の生活環境悪化への対応策として、ゲーテッド・コミュニティという住区開発が、アジアをはじめとして世界各地の都市で急速に整備されてきている。ゲーテッド・コミュニティとは、生活に必要な施設、健康的な環境、より安全な環境（特に 24 時間警備）を備えて、フェンスとゲートで一般市街地から隔離された計画的な住宅地である。また、所有者による組合が結成され、管理・運営されるという制度的特徴を持つ。一般市街地と物理的に隔離された住宅地が望ましいかどうかについては、多くの議論が交わされてきているが、治安に関する不安の高まりなどから、ゲーテッド・コミュニティは普及の一途をたどっており、本論文はマニラを事例としてその利点や問題や発展性を分析したものである。

フィリピンにおけるゲーテッド・コミュニティの既存研究としては 2 つあるが、ゲーテッド・コミュニティの交通面での影響を分析したものに限られているのに対して、本論文はゲーテッド・コミュニティがどのような生活環境と社会機能を提供し、居住者がそれらをどう評価しているかを中心に議論している。主たる方法論としては、ゲーテッド・コミュニティ及び通常の住宅地（オーデナリィ・コミュニティと呼ぶ）それぞれの居住者に対するアンケート調査と、その調査結果に基づいた重回帰モデル及びロジットモデルによる分析である。

論文は全 6 章からなり、序章と最後の総括章以外では、まず第 2 章で 2003 年 12 月から 2004 年 1 月にかけて実施したアンケート調査の概要を説明している。ゲーテッド・コミュニティ 373 世帯、及びオーデナリィ・コミュニティ 400 世帯（全体で 12% 強の回収率）のサンプルから集めた所得などの世帯属性データ、ゲーテッド・コミュニティの敷地・床面積など現況、生活環境（上下水道、電気、道路、治安、公共交通など）の定義、社会機能（近隣意識、社会的まとまり、治安意識など）の定義などが説明されている。

第 3 章では、ほぼ 1 千万人の人口を擁するメトロマニラ（マニラ大都市圏）におけるゲーテッド・コミュニティの実態を報告している。マニラ全土の 16%、あるいは同住宅地の 25% を占めるゲーテッド・コミュ

ニティには130万人が居住し、圧倒的に治安の良さを主たる便益と享受し（オーデナリィ・コミュニティと比べた犯罪率なども報告）、一部で維持負担金を苦に感じている様子などがまとめられている。

第4章の計量的分析ではまず、生活環境水準を重回帰分析すると、ゲートッド・コミュニティかオーデナリィ・コミュニティかのダミー変数が大きな説明力を持つことなどを確認している。また、2つのコミュニティ・タイプの選択に関するロジットモデルでは、所得などの社会経済属性が効いていることなどが、興味深い結果となっている。

審 査 の 結 果 の 要 旨

分析結果の内容的には予想された傾向ではあるが、これを精力的に調査し、体系的に定量化した研究は初めてであり、評価される。残されたオーデナリィ・コミュニティの社会問題にも配慮しながら、ゲートッド・コミュニティの計画・整備・費用・運営・規制の改良課題（オーデナリィ・コミュニティのゲートッド・コミュニティへの転換を含む）を社会経済的・都市設計的に議論した多面的アプローチに努力がうかがえる。たとえばロジットモデル分析をさらに進めれば所得変化によるゲートッド・コミュニティ居住率の弾力性などを議論することも可能であり、これらの研究課題を達成して成果を国際学術雑誌に公表すれば、フィリピンのみならず世界的なゲートッド・コミュニティの計画に示唆を与えると期待される。しかしながら、既に日本での査読付論文も1編あり、proceedingsなども数編あり、博士（社会工学）の学位を受ける水準に十分に達していると判断される。

よって、著者は博士（社会工学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。